

○計画期間:平成29年4月～平成34年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点(平成30年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成29年4月の認定基本計画策定後、秋田駅のリニューアルや駅前大型商業施設のリニューアルなど、中心市街地での各種事業が順調に動き出している。中でも、駅前大型商業施設のリニューアルにより、改装後の来店者数が3～4割増となっているだけでなく、その波及効果が周辺の既存大型商業施設にも現れ、中心市街地のにぎわい創出に大きく貢献しているところである。その結果、基本計画策定時には計画されていなかった、周辺商店街や既存大型小売店舗の連携による集客イベントが開催されるなど、中心市街地の活性化に向けた取組みが順調に進められている。

また、平成33年度中の完成に向けて、県・市連携文化施設整備事業の基本設計が完了し、旧県立美術館についても利活用案がまとめられたところである。既存の芸術文化施設と一体的に形成される「芸術文化ゾーン」の活用について、周辺商店街・民間事業者と行政・芸術文化施設との連携を図るため、関係者による「芸術文化ゾーン活用研究会」を開催し、活力あるまちづくりの方策を研究するなど、新たなまちの魅力・価値の創出に向けた動きが見られる。

中心市街地の活性化に向けた前述のような動きを受けて、長年空きビルとなっていた中心市街地内の旧ビジネスホテルについてもマンションへの建替が発表されるなど、ここ数年見られなかった大規模な民間投資が動きつつあるほか、空き店舗などを活用した新規出店、創業・起業に対する支援策もかつてないペースで利用されており、中心市街地の活性化に向けた好循環が生まれつつある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地地域)	平成28年度 (計画期間開始前年度)	平成29年度 (フォローアップ年度)
人口※1	3,901	3,861
人口増減数※2	-29	-14
社会増減数※2	-3	4
転入者数※2	235	202

※1:秋田市人口世帯表より ※2:住民基本台帳より(※1、※2とも、各年10月1日現在の値となっている。)

2. 平成29年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

基本計画策定後1年が経過したが、この間、中核事業である県・市連携文化施設整備事業の基本設計や旧県立美術館の利活用案がまとめられた。さらに、千秋公園については、再整備基本計画がまとめられ、今後の整備が期待されるところである。民間事業についても、CCRC拠点整備事業が平成30年度着工に向け順調に進んでいるほか、秋田駅周辺においても「ノーザンステーションゲート秋田」プロジェクトとして、施設整備や様々なイベントを通じ、にぎわいの創出が図られている。

中心市街地の活性化に向けた各種取組が進められており、民間投資の誘発も期待されるなど、基本計画は概ね順調に進捗していると評価する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
行きたい街	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	32,484人 (H28)	35,000人 (H33)	29,695人 (H29)	-	①
	芸術文化施設利用者数 (1日当たり)	966人/日 (H27)	1,530人/日 (H33)	925人/日 (H29)	-	①
住みたい街	中心市街地における 人口の社会増加数 (累計)	26人 (H24～H28 の累計)	240人 (H29～H33 の累計)	4人 (H29)	-	①
活力ある街	商業集積促進関連制度 利用件数(累計)	34件 (H23～H27 の累計)	50件 (H29～H33 の累計)	41件 (H29)	-	①
	市民活動等 施設利用件数	20,196件 (H27)	20,800件 (H33)	21,453件 (H29)	-	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)」については、秋田駅前の大型商業施設がリニューアルのため長期休業中であったことと、調査実施日の直前に発生した記録的豪雨により、秋田市内において甚大な被害を受けた影響により減少したものと想定される。しかし、リニューアルした商業施設の来店者数が改装前と比べ3～4割増加しているなどの結果が現れており、今後の各種事業の効果発現により目標達成は可能と見込まれる。

「芸術文化施設利用者数」については県立美術館がリニューアルのため、3ヶ月間休館したことにより基準値を下回る結果になっているが、他施設は順調に利用者数が増加しており、今後、芸術文化ゾーンとして、既存施設の連携や新たな施設整備が進められることによって目標達成は可能と見込まれる。

「人口の社会増加数(累計)」については、平成28年は3人減であったのに対し、平成29年は4人の増加と順調に推移している。今後、日本版CCRC事業の完了などにより、目標達成は可能と見込まれる。

「商業集積促進関連制度利用件数」は平成29年度41件となっており、中心市街地内での新規出店等に対する支援策の拡充と活性化への機運の高まりを受けて目標を上回るペースで推移しており、目標達成は可能と見込まれる。

「市民活動施設等利用件数」は目標値を上回る結果となっており、目標達成は可能であると考えているが、現状で中心市街地内の施設は稼働率が相当高く、基本計画に基づき市民の需要を満たす新たな施設整備が期待されており、今後も引き続き各種支援策等を実施していくこととしている。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

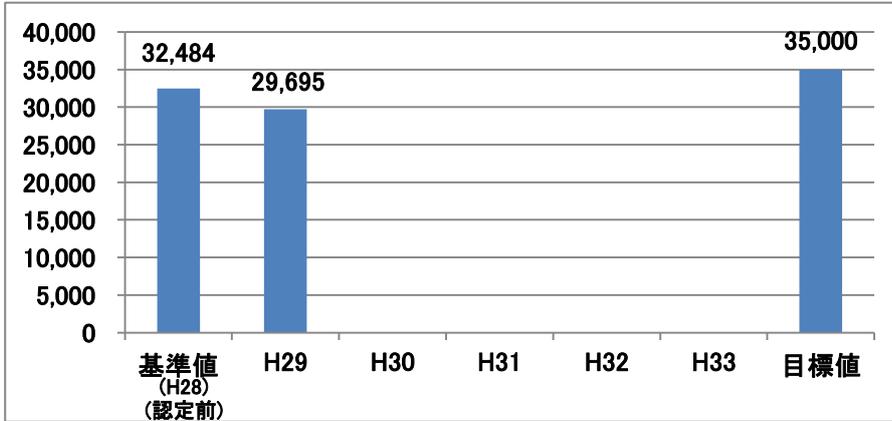
計画策定初年度であり、前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」

※目標設定の考え方基本計画P96～P109参照

●調査結果の推移



年	(人)
H28	32,484 (基準年値)
H29	29,695
H30	-
H31	-
H32	-
H33	35,000 (目標値)

※調査方法： 毎年7月の原則第3日曜日とその直後の月曜日(平日)、中心市街地内11箇所における10時から19時まで中学生以上の歩行者及び自転車による通行量を計測する。

※調査月： 7月

※調査主体： 秋田市

※調査対象： 中心市街地内11地点（フォンテAKITA前(仲小路側)、メガネ玉屋前、ヤマハ秋田店前、アトリオン前(広小路側)、木内前(広小路堀側)、キャッスルホテル前(仲小路側)、大町公園橋、山下金物店前、ぼぼろード(東口)、アトリオン前(仲小路側)、市民市場前)における中学生以上の歩行者および自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 県・市連携文化施設整備事業（秋田県・秋田市）

事業完了時期	平成33年度【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる県民会館および秋田市文化会館の機能を集約した県民・市民の芸術文化活動の拠点となる文化施設を現県民会館所在地に整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は、新文化施設の基本設計が完了し、平成33年度中の開館に向けて順調に事業が進められている。今後、解体工事・建設工事に着手することで、一時的に歩行者・自転車通行量の減少が見込まれるが、完成後は新たなまちの魅力の核として、にぎわいの創出に寄与するものである。なお、計画策定時には事業効果として1,030人の歩行者・自転車通行量増加を見込んでいる。

②. (仮称) 芸術文化交流施設整備事業（秋田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空きビルとなっている旧県立美術館を改修し、多世代にわたる市民が創造・発信できる多様な活動の場として整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は、利活用方針に市民や関係者の意見を反映させるため、市民ワークショップを4回開催し、具体的な利活用アイデアの集約を図り、利活用案をまとめたところである。なお、計画策定時には事業効果として632人の歩行者・自転車通行量増加を見込んでいる。

③. 日本版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）（民間）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	地域社会との連携や医療介護ケアなどの機能を有し、秋田市におけるCCRCのモデルとなるような、健康な中高齢者向け共同住宅を整備する。
事業効果及び進捗状況	本事業の実施により、中心市街地において140人の人口増加が期待されている。平成29年度は実施設計を行い、平成32年秋の完成に向けて、順調に事業が進行している。なお、計画策定時には本事業を含む街なか居住人口増加に向けた取組の効果として336人の歩行者・自転車通行量増加を見込んでいる。

④. 旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備（民間）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	長年未利用となっていた地元新聞社跡地（市有地）を活用し、商店街の核となるコンパクトな職住一体型商業施設等の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	商店街の核となるコンパクトな商業施設として、施設の名称を「秋田街屋」とし、ホームページなどにより入居者の募集を開始したところである。平成31年度の完成に向けて、引き続き事業を進めていく。なお、計画策定時には本事業の効果として790人の歩行者・自転車通行量増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

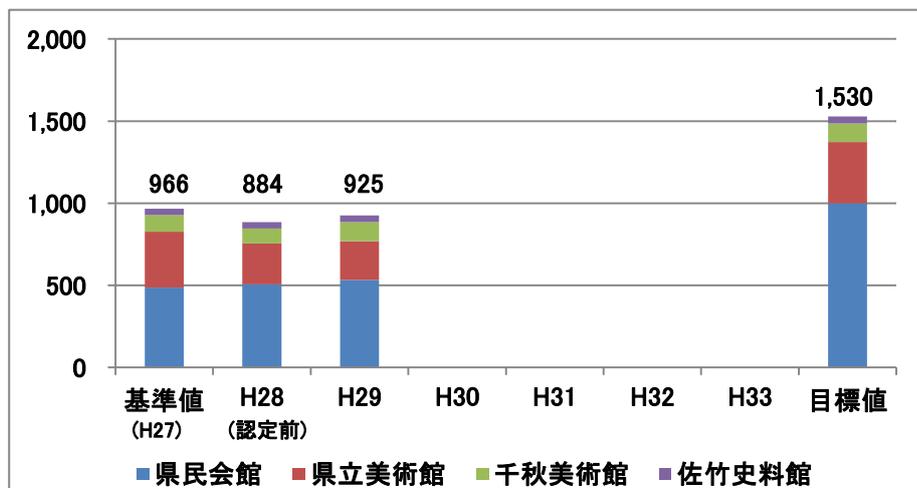
平成29年度は、歩行者・自転車通行量調査日の直前に記録的豪雨に見舞われ、秋田市内においても浸水被害や公共交通の運休など甚大な被害を受けた。また、秋田駅前の大型商業施設においては、店舗リニューアルのため長期間休業となっており、これらの要因により、中心市街地における通行量に少なからず影響を与えたものと考えられる。しかしながら、大型商業施設のリニューアルの結果、当該店舗の来店者数が3～4割増となっただけでなく、周辺の既存商業施設などにおいても、その波及効果を受けて来店者数の増加が見られるなど、中心市街地のにぎわい創出に好影響が表われている。

目標達成に寄与する主要事業は順調に進んでおり、事業完了後には、各施設・店舗単体での集客に加え、芸術文化施設との連携などによるまちの滞在時間の増加と回遊性の向上などが期待されるほか、計画策定時には見られなかった既存大型商業施設間での連携や、空きビルをマンションへ建て替えるなどの新たな民間投資の動きも見られ、今後更なる来街者数の増加が期待できる。

今後も、基本計画掲載事業による工事や一時的な施設の閉館等の影響を受けて一時的に歩行者・自転車通行量が減少する可能性があるが、各種事業の効果発現に伴い、目標達成は可能だと考えている。

「芸術文化施設利用者数（1日当たり）」※目標設定の考え方基本計画P110参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H27	966 (基準年値)
H28	884
H29	925
H30	-
H31	-
H32	-
H33	1,530 (目標値)

※調査方法： 中心市街地内の芸術文化施設である、県・市連携文化施設、県立美術館、市立千秋美術館、佐竹史料館の1日当たりの平均利用者数の合計。なお、平成33年度中に開館する県・市連携文化施設完成までは、既存の県民会館利用者数をもとに調査を行う。

※調査月： 4月（前年度の利用実績をもとに調査）

※調査主体： 秋田市

※調査対象： 県・市連携文化施設（現県民会館）、県立美術館、市立千秋美術館、佐竹史料館の利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 県・市連携文化施設整備事業（秋田県・秋田市）（再掲）

事業完了時期	平成33年度【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる県民会館および秋田市文化会館の機能を集約した県民・市民の芸術文化活動の拠点となる文化施設を現県民会館所在地に整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は、新文化施設の基本設計が完了し、平成33年度中の開館に向けて順調に事業が進められている。今後、解体工事・建設工事に着手することで、既存の県民会館の利用はできなくなるが、完成後は新たなまちの魅力の核として、にぎわいの創出に寄与するものである。なお、計画策定時には本事業の効果として513人の利用者数が増加すると見込んでいる。

②. （仮称）芸術文化ゾーン連携事業（実行委員会）

事業完了時期	平成33年度【未実施】
事業概要	整備予定の（仮称）芸術文化交流施設や県・市連携文化施設等で構成する「芸術文化ゾーン」において、各施設の連携による（仮称）あきた芸術祭を開催する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は、「あきた豊醸化計画」として各種シンポジウム等を開催し、将来のまちづくりを見据えた「芸術・文化によるまちおこし」を推進するプロジェクトの実施に向けて、準備を進めているところである。なお、計画策定時には本事業の効果として48人の利用者数が増加すると見込んでいる。

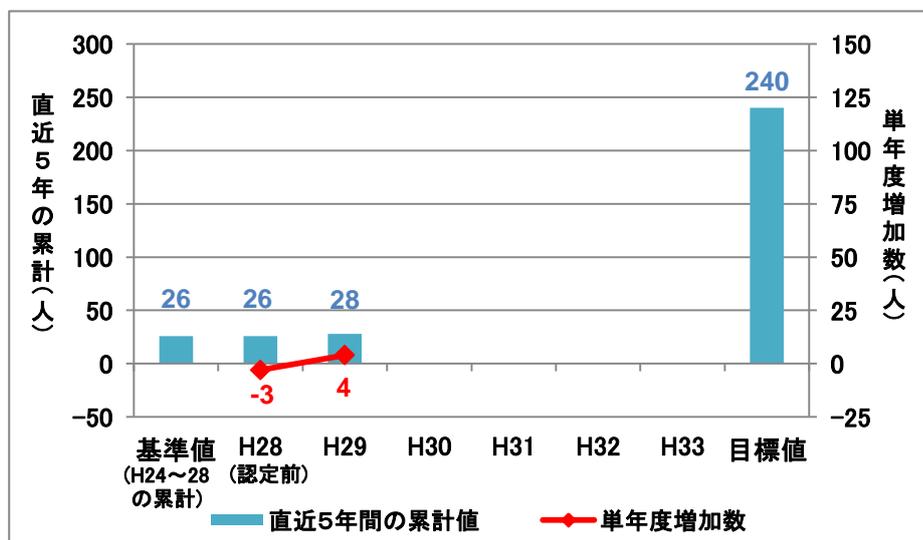
●目標達成の見通し及び今後の対策

芸術文化施設利用者数（1日あたり）については、県立美術館がリニューアルのため平成30年1月から約3ヶ月間閉館した影響を受けて基準値を下回る結果となったが、基本計画掲載事業は予定どおり進められており、県立美術館以外の施設については、いずれも計画策定時の利用者数を上回る結果となっている。今後、県・市連携文化施設整備事業実施にあたり、秋田県民会館が解体されることから、一時的に利用者数の減少を見込んでいるが、平成33年度中の新文化施設開館により現県民会館の機能が強化されるだけでなく、新たな機能が中心市街地外から移転することから、利用者数は大幅に増加する見込みである。また、周辺の既存芸術文化施設の連携により、多くの市民が芸術と触れ合う機会を創出し、県都あきた成長プラン（第13次秋田市総合計画）に位置づけられた「芸術・文化のまちおこし」を推進していくことで、新たなまちの魅力・価値を創出し中心市街地の活性化を図っていく。

「中心市街地における人口の社会増加数（累計）」

※目標設定の考え方基本計画P111～P113参照

●調査結果の推移



年	(人)
	26 (基準年値) H24~28の累計
H28	-3
H29	4
H30	-
H31	-
H32	-
H33	-
	240 (目標値) H29~33の累計

※調査方法： 中心市街地を包括する11字について、毎年10月1日時点における過去1年間の人口社会増加（転入・転出数の合計）を集計する。

※調査月： 10月

※調査主体： 秋田市

※調査対象： 中心市街地を包括する11字（大町一丁目、大町二丁目、保戸野通町、千秋久保田町、千秋明徳町、千秋公園、中通一丁目、中通二丁目、中通三丁目、中通四丁目、中通七丁目）における人口の社会増減

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① まちなか居住推進事業（空き家定住推進事業）（秋田市）

事業完了時期	—【実施中】
事業概要	区域外からの転入者を対象に、中心市街地内の空き家バンク登録物件について、居住するための改修等を行う場合、工事費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は本事業による補助金の申請はなかった。今後は、補助事業の周知を図り、事業の活用を進めていく。なお、計画策定時には本事業の効果として46人の居住人口増加を見込んでいる。

②. 日本版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）（民間）（再掲）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	地域社会との連携や医療介護ケアなどの機能を有し、秋田市におけるCCRCのモデルとなるような、健康な中高齢者向け共同住宅を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は実施設計等を行った。平成32年秋の完成に向けて、平成30年度半ばから本体工事に着手する予定であり、順調に事業が進行している。なお、本事業の実施により、140人の居住人口増加が期待されている。

③. 住宅リフォーム支援事業（秋田市）

事業完了時期	—【実施中】
事業概要	住宅リフォームへの支援により定住の継続を図るとともに、マンション等の空き室の活用促進と移住促進による定住人口の増加を図る。平成29年度から、中心市街地においては他地区よりも有利な支援を行っている。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は、想定5件に対し、6件の実績があり、定住の継続と移住促進が図られた。今後も継続して事業を行い、中心市街地の定住人口増加を図っていく。なお、計画策定時には本事業の効果として37人の居住人口増加を見込んでいる。

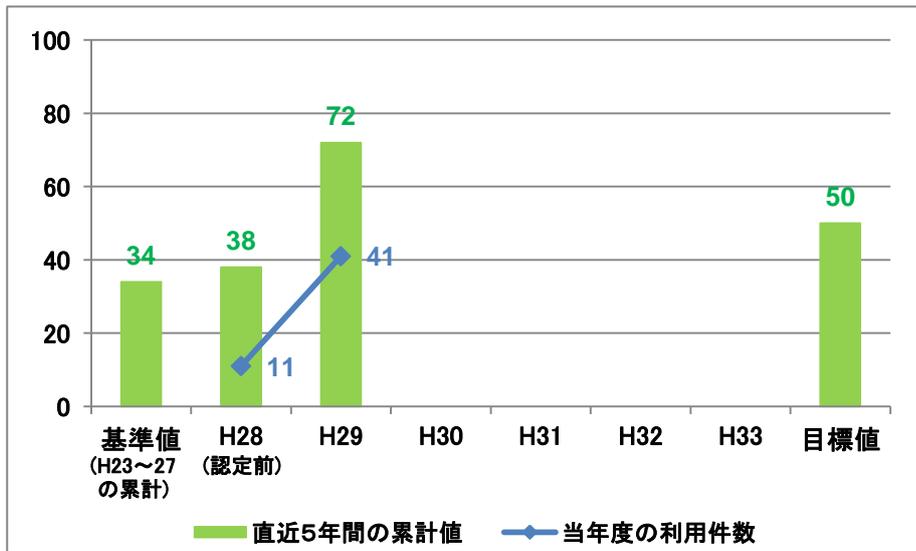
●目標達成の見通し及び今後の対策

本市全体では人口減少が進む中、中心市街地においても、他地域に比べその割合は低いものの人口の減少が見られている。その中で、日本版CCRC事業においては、総供給戸数こそ当初の計画より減少したものの、供給する住宅の間取りの見直しにより、ファミリー層も含むアクティブシニアを対象とした多世代共生型CCRCマンションとして、より多くの居住人口が見込まれている。また、中心市街地およびその周辺においては、平成24年以降見られなかった民間投資によるマンション建設の動きが見られるなど、人口増加に資する取組みが見られるようになってきている。

新築マンションによる人口の増加に頼るだけでなく、既存住宅や空き家などの既存ストックを活用した定住人口の増加・維持策なども進められており、今後も各種施策を着実に実施することで目標の達成は十分可能であると考えている。

「商業集積促進関連制度利用件数（累計）」※目標設定の考え方基本計画P114参照

●調査結果の推移



年	(件)
	34 (基準年値) H23~27の累計
H28	11
H29	41
H30	-
H31	-
H32	-
H33	-
	50 (目標値) H29~33の累計

※調査方法： 前年度における商業集積促進関連制度利用件数を集計する。

※調査月： 4月

※調査主体： 秋田市

※調査対象： 商業集積促進関連制度（小売業等チャレンジ支援事業、中心市街地出店促進融資あっせん制度、中心市街地商業集積促進補助制度（空き店舗支援）、商工業振興奨励措置事業）の利用件数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 小売業等チャレンジ支援事業（秋田市）

事業完了時期	－【実施中】
事業概要	起業創業を支援するために、中心市街地内の空きテナントを借上し、チャレンジショップの場を安価で提供することで、新たな開業と空き店舗解消を促進させ、商業振興を図る。
事業効果及び進捗状況	平成29年度はチャレンジショップとして2店の出店があり、新規開業に向けた1年間の支援を受けた。うち1店が中心市街地内の空きテナントへの出店を決めた。なお、計画策定時には本事業の効果として5年間で20件の出店を見込んでいる。

②. 中心市街地商業集積促進補助制度（秋田市）

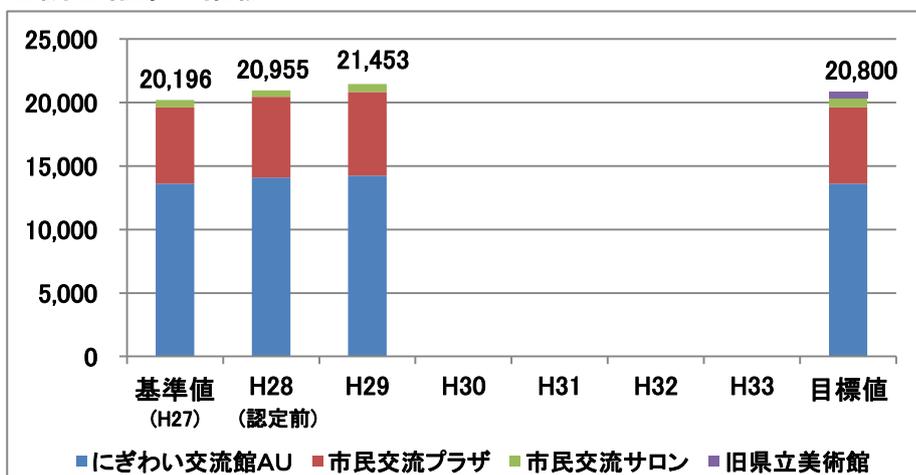
事業完了時期	－【実施中】
事業概要	空き店舗および空きテナントへの入居にかかる改装費および賃借料の一部を補助することで、新規出店を促し、店舗の連担性を確保するとともに、魅力ある商店街の形成を図る。
事業効果及び進捗状況	中心市街地活性化基本計画の認定にあわせ、平成29年度から支援策の拡充を行ったことにより、例年を大幅に上回る制度利用があり、中心市街地の空き店舗解消、にぎわいの創出に寄与している。なお、計画策定時には本事業の効果として5年間で10件の出店を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

商業集積促進関連制度利用件数については、平成23年度から平成27年度までの5年間で合計34件（基準値）となっていたものが、中心市街地の活性化に向けた機運の高まりと、支援策の拡充などを受けて、これまでにないペースで制度の利用が続いており、平成29年度だけでも、空き店舗への出店支援である「中心市街地商業集積促進補助制度」利用件数が32件と、目標を上回るペースでの制度利用件数となっている。中心市街地においては、まだ空き店舗や空きテナントが散見されるだけでなく、今後新たに市有地を活用した商業施設整備も予定されていることから、引き続き各種制度の利用を促し、中心市街地における新規出店、創業・起業を支援し、にぎわいの創出に取り組んでいく。

「市民活動等施設利用件数」※目標設定の考え方基本計画P115参照

●調査結果の推移



年	(件)
H27	20,196 (基準年値)
H28	20,955
H29	21,453
H30	-
H31	-
H32	-
H33	20,800 (目標値)

※調査方法：市民活動の場となる中心市街地内の公共施設（貸し会議室等）の利用件数を集計する。

※調査月：4月

※調査主体：秋田市

※調査対象：にぎわい交流館AU、秋田市民交流プラザ、市民交流サロン、(仮称)芸術文化交流施設展示ギャラリーおよび(仮称)芸術文化交流施設レジデンスホールの施設利用件数を集計する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称)芸術文化交流施設整備事業(秋田市)(再掲)

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空きビルとなっている旧県立美術館を改修し、多世代にわたる市民が創造・発信できる多様な活動の場として整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度は、利活用方針に市民や関係者の意見を反映させるため、市民ワークショップを4回開催し、具体的な利活用アイデアの集約を図っている。なお、計画策定時には本事業の効果により524件の利用件数増加を見込んでいる。

②. 市民活動育成・支援経費（秋田市）

事業完了時期	－【実施中】
事業概要	秋田拠点センターALVE内の市民交流サロンにおいて、市民活動に係る各種講座の開催や情報提供、市民活動アドバイザーによる相談業務を行う。
事業効果及び進捗状況	市民活動のきっかけとなる各種講座の開催や情報提供、相談業務の充実、各団体間のネットワーク形成の支援および活動機会の提供などの環境づくりを進め、市民による主体的な活動を継続的に支援している。なお、計画策定時には本事業の効果により115件の利用件数増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

市民活動については、前期計画事業として整備されたエリアなかいち内の「にぎわい交流館AU」の開設や、秋田拠点センターALVE内の「市民交流サロン」における「市民活動育成・支援」などの成果により、年々活動が活発化してきている。中心市街地においては、その活動の場となる公共施設等が以前から高い稼働率となっており、既存施設だけでは今後さらに増加が見込まれる市民活動に対し、その活動の場を十分に提供することが困難になることが予想される。また、今後中心市街地で進められる県・市連携文化施設整備事業などの影響により、一時的ではあるものの既存施設の利用に制約が生じる可能性があることから、場の提供にかぎらず、ソフト・ハード両面から継続して市民活動に対する支援を行っていく必要がある。